

# 高齢者活動の推進のため 公用バスの活用を

近江湖 静 議員

## 公用バスについて

**質問** 現在、横手市は19台の公用バスを所有しているが、合併前と合併後ではまったく運用の形態が変わっている。

3月議会でも「高齢者の生き生き健康増進活動推進のため、公用バスを活用すること」の陳情が出され、採択されているが、公用バスの利用と今後の対応は。

**答弁** 合併前の各地域での公用バスの運行方法がまちまちであったため、市が法律に違反せず、どの地域でも同じ基準で使用していただくための、運行基準を9月議会まで定めていく。公用バス使用の判断は、合併後の市としても大変難しい判断であるが、



出来るだけ住民の皆さんに利活用していただきたいと考えている。

**質問** 公用バスは、市の主催か共催事業に限り運用されているが、市から全面的に事業を委託している社会福祉協議会の事業にも運用すべきと考えるが。

**答弁** 今回、改定しようとしている公用バスの運行規程では、社会福祉協議会の主催する行事は市の主催とみならず方向で考えていきたい。

## 納税貯蓄組合の活動について

**質問** 税の収納率の向上のため、納税貯蓄組合の充実を図るべきと考えるが。

**答弁** 確かに、納税貯蓄組合の活動が活発な地域は、収納率が高い状況にあるので、今後も事務的経費については支援をしていきたい。

残念ながら、納税貯蓄組合の少ない旧横手地域は、収納率が低い傾向にあるが、都市化の傾向の中にあり、貯蓄組合の組織が浸透しにくい地域のため、別段の対策を考えていきたいと考えている。

その他の質問事項  
・安全安心のまちづくりについて

# 山内学習センターの アスベスト対策を急げ

土田百合子 議員

## 行政のスリム化で経費削減を

**質問** 合併後初の18年度は想像以上に厳しい財源不足をあらわした予算でのスタートとなった。徹底した行政改革を推進しスリム化を図り経費を削減する努力が不可欠である。しかし一方では効率化が市民サービスの低下とならないよう一層の工夫と努力が求められると思う。どう取り組むのか。

**答弁** 仕事仕分けについては、今年秋を目途として10か20の事務事業を対象にトライアル（試みの取り組み）したい。市民サービスあり方は16名による行革推進委員会にも検討をお願いしている。公用車の集中管理体制については、



現在8地域と本庁舎予約システムを活用。将来的には公用車の管理業務を民間に委託し、地域の活性化を図りたい。燃料費のばらつきには各地域局で情報を共有し業者と交渉する。市の財産を活用した広告事業の推進などによる収入確保など、職員からアイデアを募り財源の確保に努めたい。また、分庁舎方式を早く改善することが住民の利益に繋がるのであればそうしたいと考える。

## 山内学習センターの新築について

**質問** 年間1万4千人を超える利用者があるが、老朽化とともに天井裏からアスベストも発見された。地域局とともに新築について考えは。

**答弁** 新築については、新庁舎のあり方の検討とともに考慮されるべきだ。アスベスト問題と老朽化の問題を考慮すると、その優先順位は上位にあると考える。合併による優遇措置がある間に解決する必要がある。

その他の質問事項  
・生活路線（通学路）の安全対策は万全か